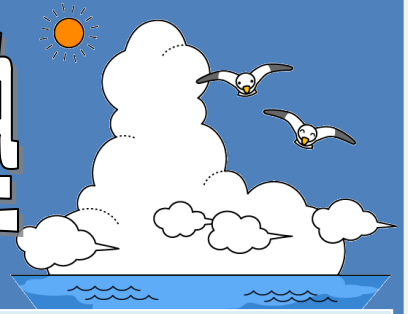


第3回中堅教員サポート塾

平成30年7月28日(土)



夏休みに入り暑い日が続く中、県内各地の小学校、高等学校、特別支援学校から先生方6名が集まり、第3回の中堅教員サポート塾が行われました。

今回のテーマは「いじめ・不登校について」と「特別な支援を要する児童・生徒の対応について」であり、熱心な研修が行われました。

講話・演習の様子



研修1 「いじめ・不登校について」

いじめについては、近年の重大事件により、法整備がなされるとともに学校の対応が求められていること、国や県の動き、千葉県の現状及びいじめの理解と取組について事例を通して学びました。

不登校については、不登校の現状、不登校の定義及び不登校の対応について学びました。特に、不登校対応の自立支援では、見立ての重要性から、「見立てシート」を活用して、自立支援をしていくことを具体的に学びました

研修2 「特別な支援を要する児童・生徒の対応について」

まず、特別支援学校数、小中学校の特別支援学級数及び通級の学級数が増加していることをふまえた上で、自立活動の重要性を学びました。

次に、ユニバーサルデザインの視点とそのための環境整備について確認しました。

最後に、合理的配慮とその例、共生社会の形成について学びました。



参加者の声

不登校対応では、長期的に取り組んでいく必要があり、「学級に登校させる」のが目的ではなく、「社会的自立」の視点で考えていくことが重要だと感じました。

特別支援教育は、全ての教員が理解しておかないといけないと思いました。

豊富な事例とわかりやすい説明でとても良かったです。今回学んだことを今後ともに生かしたいと思います。ありがとうございました。

不登校・いじめについては、改めてチームとして問題に取り組むことの重要性を感じました。

学んだことをすぐに学校教育で使うことができるものばかりでした。校内の研修で紹介してみます。